

第2回藤沢駅前街区エリアデザイン会議 議事要旨

1 エリアデザインコンセプト案の検討

- ・ 藤沢駅前是通过点ではなく目的地として考えるべきではないか。
- ・ 海などではなく藤沢駅前の固有のデザインが提示されてもいいのではないか。
- ・ 「湘南」ではなく「藤沢」にこだわったコンセプトとしてほしい。
- ・ 湘南という言葉の扱いに気を付ける一方、湘南の持つマーケティング力も大きい。
- ・ 1枚で駅周辺の全貌が分かる資料がほしい。
- ・ 全てを包括する共通項を導くために、そぎ落としていく作業が必要になる。駅前街区は人が行き交う場所であるため、移動しやすく動きやすいデザインであるとよい。
- ・ 駅前に求められる機能や性能を明文化することも大事。
- ・ 「湘南」というイメージは大きすぎ、藤沢駅に求めるイメージが漠然としてしまう。
- ・ 南北自由通路が完成する10年後を見据えたコンセプトは難しい。
- ・ 10年かけて整備していくという時間軸を意識することも大事。
- ・ コンセプト（都市景観）は物的な要素と人の活動の両輪で検討してもらいたい。
- ・ 人のふるまい（アクティビティ）を考えることが空間の質につながる。
- ・ 人のアクティビティと「らしさ」は密接につながっている。「らしさ」は新しく作り出すものではなく、そこに根付いてきたものや蓄積してきたものから見出すもの。
- ・ トップダウンとボトムアップの両方から「藤沢らしさ」を見出して、人の活動と結びつけて、デザインを展開していくという流れができるとよい。
- ・ 藤沢らしさの藤沢とはどこまでか不明瞭である。
- ・ 藤沢らしさは藤沢駅前周辺らしさである。
- ・ かつて人が集まる場所（繁華街）であった藤沢駅前らしさを取り戻したい。
- ・ コンパクトシティのようなまとまりや、ミックスカルチャーな部分が藤沢駅前らしさなのかもしれない。
- ・ 藤沢駅は没個性化している。都心・中心地としての特徴を深掘するのがよい。
- ・ 海だけのイメージではなく、中心地としての位置づけにフォーカスするのがよい。
- ・ 駅を中心に考えていくべきかもしれない。湘南の扱い方も方向が絞られてくる。
- ・ 藤沢駅前が藤沢の海も何もかも背負うのは無理がある。駅前の地域性を無理に見出すのではなく、多様な藤沢の顔を出す、インデックス（見出し）としての表現もよい。
- ・ 人が時をつくるという視点も大事。
- ・ コンセプトは全部を包含する必要がある。3つの切り口（時間・エリア・主体）はバランスよく正三角形のイメージが良い。
- ・ 駅と人のアクティビティもコンセプトに盛り込めるとよい。
- ・ 三角形以外のテイストの軸もあるかもしれない。
- ・ 3つの軸にこだわらず、要素をそぎ落としてエッセンスを見出せるとよい。
- ・ 藤沢駅に来ていただきたい（目的地にしたい）との思いが根本にある。
- ・ 目的地であると同時に、玄関の他、ある種のゲートにもなっているかもしれない。
- ・ 性能や機能を明文化することも必要。

以上